

PMBOK®ガイド 第8版の展望:リリース、内容予測、PMP®試験への影響

本レポートは、プロジェクトマネジメントの国際標準であるPMBOK®ガイドの最新版、第8版に関する現時点での情報、第6版および第7版との関係性、予測される主要な変更点、そしてPMP®認定試験への影響について、専門的な分析を提供するものです。

1. PMBOK®ガイド 第8版:リリース状況と最新情報

プロジェクトマネジメントの実務家やPMP®認定資格の取得を目指す方々にとって、PMBOK®ガイドの改訂は常に大きな関心事です。ここでは、第8版のリリースに関する最新情報と、その策定プロセスについて解説します。

1.1. 公式リリース予定日とドラフト版公開情報

PMBOK®ガイド第8版は、本レポート作成時点(2025年5月)では未だ正式にリリースされていません。しかし、その登場に向けた動きは具体化しています。

オンライン小売サイトAmazon.comには、「A Guide to the Project Management Body of Knowledge (PMBOK® Guide) – Eighth Edition」の予約情報が掲載されており、リリース予定日として**2025年12月1日**が記載されています¹。これは、現時点で公表されている最も具体的な日付情報の一つとして注目されます。

複数の情報源が、第8版のリリース時期を**2025年後半(第3四半期または第4四半期)**と予測しています²。特に、PMI(Project Management Institute)の認定教育プロバイダー(ATP)である日本プロジェクトソリューションズ株式会社は、長年の経験に基づき、2025年第3四半期後半から第4四半期(具体的には8月から12月)のリリースを予想しています³。また、他の専門家も2025年10月頃のリリースを見込んでいます⁵。

PMBOK®ガイドの改訂プロセスにおいて重要なステップとなるのが、ドラフト版(草案)の公開とフィードバック収集です。第8版に関しても、PMIコミュニティからの意見を広く募るため、ドラフト版が公開されました。最初のドラフトコメント期間(DCP: Draft Comment Period)は、2024年12月20日から2025年1月19日まで設けられました²。

さらに、米国国家規格協会(ANSI)の基準策定プロセスの一環として、BSR-8(Board of Standards Review-8)としての公開レビュー期間が2025年4月18日から2025年6月2日まで設定されました⁷。このANSIレビューは、規格としての承認を得るための正式な手続きであり、より広範なステークホルダーからの意見を取り入れ、内容の妥当性と品質を高めることを目的としています。

このような複数のフィードバック収集の機会が設けられていることは、PMIがPMBOK®ガイドの改訂において、段階的かつ反復的な改善プロセスを採用していることを示唆しています。最初

のドラフトに対するコミュニティからのフィードバックが初期の改訂に活かされ、その後のANSIレビューを通じてさらに内容が洗練されるという流れは、最終的な出版物の品質と受容性を高める上で効果的です。このため、2025年後半にリリースされる正式版は、これらのフィードバックサイクルを経て、最初のドラフトから顕著な改善が加えられたものとなる可能性があります。

1.2. PMIによるフィードバック収集プロセス

PMIは、PMBOK®ガイドの改訂にあたり、プロジェクトマネジメントコミュニティからのフィードバックを非常に重視しています。これは、ガイドが世界中の実務家にとって真に価値のあるリソースであり続けるために不可欠なプロセスです。⁶には、「この協調的な取り組みは、PMBOK®ガイドの最終版が世界中の実務家にとって価値あるリソースであり続けることを確実にすることを目的としています」と記されており、PMIの姿勢が明確に示されています。

特に第8版の改訂においては、コミュニティの声を反映したデータ駆動型のアプローチが採用されている点が強調されています。⁸では、「第8版はこれまでで最もデータ駆動型な更新であり、コミュニティの声を文書全体の更新に反映させています」と述べられています。これは、PMIが単に専門家の意見を集約するだけでなく、広範なデータに基づいて改訂の方向性を決定し、内容の妥当性を検証していることを意味します。

PMIがグローバルスタンダードとしてのPMBOK®ガイドを維持しつつ、コミュニティからの具体的なフィードバックを深く取り入れ、さらにANSIのような国家規格機関の正式なレビュープロセスを経るという事実は、注目に値します。これは、広範な適用可能性と厳格な開発プロセスの両立を目指すPMIのコミットメントを示しており、改訂版が現場のニーズを的確に捉え、かつ信頼性の高いものとなることへの期待を高めます。

2. PMBOK®ガイド 第6版・第7版の特性と補完関係のレビュー

PMBOK®ガイド第8版の位置づけを理解するためには、先行する第6版および第7版の特性と、両者の関係性を把握しておくことが不可欠です。ユーザーが指摘するように、これら二つの版は相互補完的な役割を果たしてきたと広く認識されています。

2.1. 第6版：プロセスベースのアプローチとその強み

2017年に発行されたPMBOK®ガイド第6版は、プロセスベースのアプローチを特徴としていました。具体的には、プロジェクトマネジメントを5つのプロセス群（立上げ、計画、実行、監視・コントロール、終結）と10の知識エリア（統合、スコープ、スケジュール、コスト、品質、資源、コミュニケーション、リスク、調達、ステークホルダー）のマトリックスで整理し、**49**の個別プロセスを定義していました⁵。

各プロセスは、インプット（Input）、ツールと技法（Tools & Techniques）、アウトプット（Output）によって詳細に記述され、これらは総称して「ITTO」として知られています⁹。この構造は、プロジェクトマネジャーが何をすべきか、どのようにすべきかについての具体的かつ詳細なガイ

ダンスを提供するものでした。第6版は、特に計画段階でプロジェクトの全体像が固まっているウォーターフォール型の開発手法を主に意識した構成となっていました¹¹。

アジャイル型のアプローチに関する記述も「アジャイル実務ガイド」として同梱される形で含まれていましたが、PMBOK®ガイド本体の主眼は依然として伝統的な予測型アプローチに置かれていました¹³。プロジェクトマネジャーは、これらの知識エリア、プロセス、ITTOを個々のプロジェクトの特性や環境に合わせてテーラリング（調整・最適化）することが期待されてきました⁹。

2.2. 第7版：原理・原則ベースへの転換と価値提供重視

2021年8月にリリースされたPMBOK®ガイド第7版は、第6版から大幅な方針転換を行いました¹⁴。最大の特徴は、従来のプロセスベースのアプローチから、**12の「プロジェクトマネジメントの原理・原則（Project Management Principles）」と8つの「プロジェクト・パフォーマンス領域（Project Performance Domains）」**を中核とする、より高次の概念に基づいたフレームワークへと移行した点です⁹。

この変更の背景には、プロジェクト環境の複雑化、変化の加速、アジャイル型やハイブリッド型といった多様な開発アプローチの普及など、現代のプロジェクトマネジメントを取り巻く状況の変化があります¹¹。第7版は、特定の方法論に縛られず、あらゆるプロジェクトやデリバリアプローチに適用可能な普遍的な指針を提供することを目指しました。

焦点も、具体的な成果物（deliverables）の作成から、プロジェクトがもたらす価値（value）の提供へと大きくシフトしました⁹。これは、プロジェクトチーム全体が、技術的なプロセスやツールに終始するのではなく、ステークホルダーにとって真の価値を提供するためのスキルとリソースに目を向けることを促すものです⁹。

この方針転換の結果、第7版のページ数は第6版の756ページから274ページへと大幅に削減されました⁹。これは、あらゆるハウツーを網羅しようとするのではなく、プロジェクトを成功に導くための基本的な考え方や行動指針といった原理・原則をコンテンツの主体としたためです¹¹。ITTOの詳細な記述はガイド本体からは姿を消し、PMIのデジタルコンテンツプラットフォーム「PMIstandards+™」で提供される形となりました。

2.3. 両版の補完性とPMP®実務への影響

PMIは、第7版の発行に際し、それが第6版を無効化したり代替したりするものではないと明確に述べています⁹。むしろ、第6版で詳述されたプロセスやITTOに関する知識は、依然としてプロジェクトマネジメントの知識体系の重要な一部であり、特にPMP®資格保有者に期待される知識ベースに含まれ続けるとされています⁹。¹⁴は、「第6版（2017年）の内容は、第7版によって完全に置き換えられるのではなく、むしろ洗練され、ある意味では第6版に見られる技術的に焦点が当てられた内容の一部を補完するものとなった」と指摘しています。

このため、多くの専門家や実務家は、第6版と第7版を相互補完的なものとして捉えています。第6版が提供する具体的なプロセスやITTOは「どのように(How)」プロジェクトを遂行するかの詳細な手引きとなり得る一方、第7版が提示する原理・原則やパフォーマンス領域は「なぜ(Why)」そのように行動すべきか、そして「何を(What)」達成すべきかという、より本質的な問いに答えるものです。

PMP®認定試験の準備においても、この補完性は重要です。第7版リリース後も、試験対策としては第7版の原理・原則やパフォーマンス領域の理解に加え、第6版で定義されたプロセス群やITTO、さらにはアジャイル実務ガイドの知識が引き続き求められてきました¹¹。これは、PMP®試験の内容がPMBOK®ガイドの改訂と同時に即座に更新されるわけではなく、試験内容基準(ECO: Exam Content Outline)の改訂に基づいて段階的に変更されるためです。実際、第7版リリース後も、ECOが直ちには変更されなかったため、第6版の知識の重要性が維持されていました¹⁵。このPMP®試験内容の更新におけるタイムラグは、PMBOK®ガイドの進化と試験準備の間の重要な関係性を示しており、新しいガイドがリリースされたからといって、既存の学習教材が即座に無価値になるわけではないことを理解する上で重要です。

第6版から第7版への移行は、PMIのガイダンス哲学における大きな転換点と見なすことができます。第6版の詳細で規範的なアプローチは明確な指針を提供した一方で、硬直的と捉えられる側面もありました。対して第7版は、柔軟性と適応性を重視しましたが、一部の実務家や試験準備者にとっては抽象的すぎると感じられたかもしれません。この二つの版が「補完的」と認識されている事実は、第7版の原則主義だけでは満たされない、より具体的で実践的なガイダンスへのニーズが存在したことを示唆しています。この状況が、第8版で両者の要素を統合しようとする動きにつながったと考えられます。

3. PMBOK®ガイド 第8版: 予測される内容と第6版・第7版との関係性

PMBOK®ガイド第8版は、これまでの版の進化を踏まえ、現代のプロジェクトマネジメントのニーズに応えるべく、新たな統合と進化の形を示すものと予測されます。ここでは、ドラフト版や関連情報から読み取れる第8版のコンセプトと主要な変更点、そして第6版・第7版との関係性について詳述します。

3.1. 第8版のコンセプト: 第6版と第7版の統合と進化

PMBOK®ガイド第8版の最も顕著な特徴は、第7版の原理・原則ベースのアプローチを継承しつつ、第6版で重視されたプロセスベースの要素を再び取り入れることで、両者の強みを融合させようとしている点です³。

日本プロジェクトソリューションズ株式会社は、「今回の改訂を簡単に説明すると、第6版の内容と第7版の内容を統合し、よりシンプルかつ実践的な形にまとめたイメージです。第6版ほど複雑すぎず、第7版ほど抽象的すぎないバランスを重視した改訂となっています。」と分析しています³。また、別の情報源も「第8版は、第7版をベースに、第6版で重要視されていたITTOフ

フレームワークやプロセス群の考え方を再び取り入れた、統合的な内容になる」と指摘しています³。さらに、プロセスグループとプロセスに関する拡張されたコンテンツが再導入されることも確認されています⁴。

この「統合と進化」というコンセプトは、第7版で示された柔軟性と適応性の重要性を維持しながらも、第6版が提供していた構造的な明確さや具体的な行動指針へのニーズに応えようとするものと考えられます。第7版のリリース後、一部の実務家からは「抽象的すぎる」「具体的な手引きが不足している」といった声も聞かれました。第8版は、こうしたフィードバックを反映し、原理・原則という「羅針盤」と、プロセスやITTOという「地図」の両方を提供することで、より実践的でバランスの取れたガイドを目指していると言えるでしょう。これは、単に第6版へ回帰するのではなく、第7版で得られた知見の上に、第6版の有用な要素を再構築する試みと解釈できます。PMIは、高次の原理・原則(第7版の強み)と、実務レベルでの詳細なガイダンス(第6版の強み)の両方を求めるプロジェクトマネジメントコミュニティの多様なニーズに応えようとしているのです。

以下に、PMBOK®ガイド第6版、第7版、そして第8版(ドラフトに基づく予測)の主要な比較を示します。

表1: PMBOK®ガイド 第6版、第7版、第8版(ドラフト)主要比較表

特徴	PMBOK®ガイド 第6版	PMBOK®ガイド 第7版	PMBOK®ガイド 第8版 (ドラフト予測)
基本思想	プロセスベース	原理・原則ベース	統合・バランス型(原理・原則+プロセス)
主要構成	10知識エリア、5プロセス群、49プロセス	12原理・原則、8パフォーマンス領域	6原理・原則、7パフォーマンス領域、5プロセス群(名称変更の可能性あり)、40プロセス
ITTOの扱い	各プロセスで詳細に記述	デジタルコンテンツ(PMIstandards+™)へ移行、本体では概要	本体に再導入、詳細記述
プロセス数	49	(直接的には定義せず)	40
原理・原則の数	(該当なし)	12	6

パフォーマンス領域/知識エリアの数	10知識エリア	8パフォーマンス領域	7パフォーマンス領域
ページ数目安	約750ページ	約270ページ	約370ページ以上(第7版比で約100ページ増) 3
主な焦点	プロジェクトマネジャーによる技術的プロセスの遂行	プロジェクトチームによる価値提供、成果志向	成果達成、価値提供、適応性、および統合的アプローチ

この表からも、第8版が第6版と第7版の要素を組み合わせ、新たなバランスを追求していることが見て取れます。

3.2. 主要構成要素の変更予測

ドラフト版の情報に基づくと、第8版では主要な構成要素に以下のような変更が加えられると予測されます。

3.2.1. プロジェクトマネジメントの原理・原則 (Project Management Principles)

第7版で導入された「12の原理・原則」は、第8版ドラフトでは**「6つの原理・原則」に削減・再定義**されました³。これにより、より本質的で中核的な指針に集約されることが意図されていると考えられます。

表2: 「プロジェクトマネジメントの原理・原則」の変遷(第7版 vs 第8版ドラフト)

PMBOK®ガイド 第7版:12の原理・原則	PMBOK®ガイド 第8版ドラフト:6つの原理・原則
* スチュワードシップを発揮する (Be a diligent, respectful, and caring steward)	1. 包括的な視点を採用する (Employ an encompassing perspective)
* 協調的なプロジェクトチーム環境を構築する (Create a collaborative project team environment)	2. 価値に焦点を当てる (Focus on value)
* ステークホルダーと効果的に関わる (Effectively engage with stakeholders)	3. プロセスと成果物に品質を組み込む (Build quality into processes and deliverables)
* 価値に焦点を当てる (Focus on value)	4. 責任あるリーダーになる (Be a responsible leader)

* システム思考を認識し、評価し、対応する (Recognize, evaluate, and respond to system interactions)	5. すべてのプロジェクト領域に持続可能性を統合する (Integrate sustainability into all project areas)
* リーダーシップを発揮する (Demonstrate leadership behaviors)	6. 自律性のある(積極的に協力する)文化を構築する (Cultivate an empowering (actively cooperative) culture)
* 状況に基づいてテーラリングする (Tailor based on context)	
* プロセスと成果物に品質を組み込む (Build quality into processes and deliverables)	
* 複雑さに適切に対応する (Navigate complexity)	
* リスク対応を最適化する (Optimize risk responses)	
* 適応性と回復力のある組織文化を推進する (Embrace adaptability and resiliency)	
* 変革を推進し、目指す未来を実現する (Enable change to achieve the envisioned future state)	

第8版の6つの原則は、第7版の12原則の要素を凝縮しつつ、現代のプロジェクトマネジメントにおいて特に重要視される「価値」「品質」「リーダーシップ」「持続可能性」「自律的な文化」といったテーマを明確に打ち出しています。特に「持続可能性の統合」が原理・原則レベルで明記されたことは、時代の要請を反映した重要な変更点です。

3.2.2. パフォーマンス領域 (Performance Domains)

第7版の「8つのプロジェクト・パフォーマンス領域」は、第8版ドラフトでは**「7つのプロジェクトマネジメント・パフォーマンス領域」に変更・再定義**されました³。この変更は、単なる数の削減ではなく、内容の再編と焦点の明確化を伴います。⁶では「Redefined Performance Domains」と表現されています。

表3: 「パフォーマンス領域」の変遷(第7版 vs 第8版ドラフト)

PMBOK®ガイド 第7版: 8つのパフォーマンス領域	PMBOK®ガイド 第8版ドラフト: 7つのパフォーマンス
-----------------------------	-------------------------------

	領域
1. ステークホルダー (Stakeholder)	1. ガバナンス (Governance)
2. チーム (Team)	2. スコープ (Scope)
3. 開発アプローチとライフサイクル (Development Approach and Life Cycle)	3. スケジュール (Schedule)
4. 計画 (Planning)	4. ファイナンス (Finance)
5. プロジェクト作業 (Project Work)	5. ステークホルダー (Stakeholder)
6. デリバリー (Delivery)	6. リソース (Resources)
7. 計測 (Measurement)	7. リスク (Risk)
8. 不確かさ (Uncertainty)	

第8版ドラフトの7つのパフォーマンス領域（ガバナンス、スコープ、スケジュール、ファイナンス、ステークホルダー、リソース、リスク）は、第6版の10の知識エリア（統合、スコープ、スケジュール、コスト、ステークホルダー、資源、リスクなど）との類似性が指摘されています¹⁷。17は、「現実世界のプロジェクトマネジャーは、実際に現場で何が起きているのかを知る必要がある。その点では、PMBOK第6版の方が適していた」と評価しており、第8版のパフォーマンス領域の再定義が、より実践的なガイダンスを求める声に応えるものである可能性を示唆しています。

例えば、「ガバナンス」というパフォーマンス領域が新たに設けられたことは、プロジェクトの監督や組織戦略との整合性といった、より広範な視点からの管理の重要性を反映していると考えられます。また、第7版の「チーム」や「開発アプローチとライフサイクル」といった領域は、第8版では他の領域に統合されたり、異なる形で扱われたりする可能性があります。この再編は、プロジェクト遂行における主要な活動領域をより明確にし、既存の知識体系との整合性を高める意図があるものと推察されます。

3.2.3. ITTO（インプット・ツールと技法・アウトプット）とプロセスマップの復活

第8版における最も注目すべき変更点の一つが、第6版まで採用されていたITTOフレームワークの復活です³。¹⁷は「この第8版は、ITTOとプロセスの記述を再導入する」と述べています。

これに伴い、第6版の「プロジェクトマネジメント・プロセス群と知識エリアの対応表」（通称プロセスマップ）に類似した、「プロセス群とパフォーマンス領域の対応表」が復活する見込みです。このマップでは、横軸に「5つのプロセス群」（立上げ、計画、実行、監視・コントロール、終結 ※名称が「プロジェクトマネジメント・フォーカス・エリア」に変更される可能性あり³）、縦軸に

「7つのプロジェクトマネジメント・パフォーマンス領域」が設定され、そのマトリックスの中に40のプロセスが配置されるとされています³。¹⁷では、この40のプロセスの内訳を、立上げ2、計画19、実行9、監視・コントロール9、終結1と具体的に記述しています。

さらに、第8版の「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド」の主要なセクションとして、新たに「インプットとアウトプット(Inputs and Outputs)」および「ツールと技法(Tools and Techniques)」の大項目が追加され、40のプロセスに関連する各要素の概要がアルファベット順(またはそれに類する順序)で説明される予定です³。

ITTOとプロセスマップの復活は、各プロセスの具体的な構成要素やプロセス間の関連性を明確にし、第7版で「抽象的すぎる」と感じたユーザーにとっては、より実践的で具体的な手引きとなるでしょう。PMP®試験対策の観点からも、学習対象が明確になり、体系的な理解を助けるというメリットが期待されます。

3.3. 注目すべき新トピックと強化点

第8版では、従来の知識体系に加え、現代のプロジェクトマネジメントにおいて重要性が増している新しいトピックや、既存の領域の強化が見込まれます。

3.3.1. AI(人工知能)のプロジェクトマネジメントへの活用

第8版では、AI(人工知能)に関する記述が大幅に強化され、付属文書(Appendix)として新たに追加される見込みです³。この付属文書では、プロジェクトマネジメントにおけるAIの重要性、具体的な活用例、倫理的考慮事項などが詳述されると予測されます。

AIは、単なる概念的な言及に留まらず、具体的なツールと技法(T&T)としても位置づけられる可能性があります。例えば、資源見積活動におけるAIの活用や、スコープパフォーマンス領域におけるプロセス自動化などが挙げられています¹⁸。また、リアルタイムでの進捗監視、リスク分析の高度化、ビジネスケース作成支援など、間接的な活用例も示唆されています¹⁸。¹⁷では、スケジュールパフォーマンス領域におけるAI/ML(機械学習)ベースのスケジュール最適化といった、より専門的な応用にも言及しています。

PMI日本支部の資料においても、人材領域におけるAI活用や、プロジェクト組織が抱える課題(コミュニケーション不足、不適切な人員配置、リスク管理の困難さなど)に対するAI活用の検証が進められていることが示されています¹⁹。

AI技術は、計画策定、リスク管理、意思決定支援、コミュニケーション効率化など、プロジェクトマネジメントのあらゆる側面で変革をもたらす可能性を秘めています。PMBOK®ガイドがこのトレンドを正式に取り入れることは、プロジェクトマネジャーがAIを効果的に活用し、プロジェクトの効率と成果を飛躍的に高めるための重要な指針となるでしょう。これは、PMBOK®ガイドが時代とともに進化し、最先端の技術動向を反映していることの証左と言えます。

3.3.2. サステナビリティ(持続可能性)の重視

第8版では、サステナビリティ(持続可能性)が新たな焦点として、かつてないほど強く打ち出される見込みです⁵。これは、環境問題、社会貢献、倫理的配慮といった要素をプロジェクトマネジメントの中核に据えるという、世界的な潮流を反映したものです。

最も象徴的なのは、前述の通り、改訂された「6つの原理・原則」の一つに「すべてのプロジェクト領域に持続可能性を統合する」という項目が含まれている点です³。これにより、サステナビリティは単なる付随的な考慮事項ではなく、プロジェクトマネジメントの基本的な行動指針として位置づけられます。

²¹は、「サステナビリティと倫理的実践に強い重点が置かれ、プロジェクトがビジネス目標を達成するだけでなく、より広範な社会的および環境的目標とも整合することを保証する」と指摘しています。これは、プロジェクトの成功を短期的な成果だけでなく、環境や社会への長期的影響、さらには組織の評判やブランド価値といった観点からも評価する必要性を示唆しています。プロジェクトマネジャーは、資源の効率的な利用、廃棄物の削減、地域社会への貢献、サプライチェーンにおける倫理的な調達など、多岐にわたるサステナビリティの側面を考慮し、プロジェクト計画に組み込むことが求められるようになるでしょう。

3.3.3. PMO(プロジェクトマネジメント・オフィス)ガイダンスの進化

第8版では、PMO(プロジェクトマネジメント・オフィス)に関するガイダンスも進化すると予測されています。第7版の付属文書にもPMOに関する記述はありましたが、第8版ではこれに加えて「プロセス重視から顧客中心のパートナーシップ重視へ」という新たな視点が加わり、内容が強化される見込みです³。

この変更は、現代のPMOに求められる役割の変化を反映しています。従来のPMOは、標準化の推進、プロセスの遵守徹底、プロジェクトの監視・統制といった機能に重点を置くことが一般的でした。しかし、ビジネス環境の複雑化と変化の加速に伴い、PMOにはより戦略的な役割、すなわち組織全体の目標達成に貢献するビジネスパートナーとしての機能が期待されるようになっていきます。

「顧客中心のパートナーシップ重視」という視点は、PMOがプロジェクトチームや事業部門を「顧客」と捉え、彼らのニーズを深く理解し、価値提供を最大化するための支援を行うことを意味します。具体的には、単にルールを課すのではなく、プロジェクトの成功を能動的に支援するためのコンサルティング、コーチング、リソース提供、知識共有といった活動がより重要になるでしょう。この進化は、PMOが組織内でより戦略的な価値を発揮するための現代的なアプローチを示しています。

3.4. ページ数と構成の変更見込み

第8版は、第7版と比較して、その内容量において顕著な変化が見込まれます。「プロジェクト

マネジメント標準(The Standard for Project Management)」と「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(A Guide to the Project Management Body of Knowledge)」を合わせた総ページ数で、約**100**ページ増加すると予測されています³。

このページ数の増加は、主に第6版で採用されていたITTOフレームワークやプロセスマップといった詳細な記述が一部復活すること、そしてAIやサステナビリティといった新しいトピックに関する解説が追加されることによるものと考えられます³。第7版では、原理・原則ベースへの転換に伴い大幅なスリム化が図られましたが、第8版では再び情報量が増えることで、より包括的で詳細なガイダンスを提供することを目指しているようです。

ただし、単に情報量が増えるだけでなく、構成自体にも変更が加えられる可能性があります⁶。では、第8版ドラフトに対する業界の反応として、「成果重視の更新された焦点と合理化されたアプローチを称賛する専門家もいれば、特定のドメインの削除や提案された変更の一部から意図しない結果が生じる可能性について懸念を表明する専門家もいる」とあり、構成変更については様々な意見が出ていることが示唆されています。最終的な構成がどのようになるかは、正式リリースを待つ必要がありますが、より実践的で利用しやすい構造への改善が期待されます。

第8版におけるこれらの変更は、PMIがプロジェクトマネジメントの進化するニーズに積極的に対応しようとしている姿勢の表れです。特にAIとサステナビリティを中核的なテーマとして取り込むことは、PMBOK®ガイドが単に既存のベストプラクティスを反映するだけでなく、未来のプロジェクトマネジメントのあり方を能動的に形作ろうとしていることを示しています。これにより、プロジェクトマネジメントの戦略的重要性が一層高まることが期待されます。また、パフォーマンス領域の再定義や「ガバナンス」の導入は、プロジェクトの成功をより広範な視点、すなわち組織戦略との整合性や価値提供という観点から捉え直そうとする動きと解釈でき、プロジェクトマネジメントの成熟度を高める上で重要な意味を持つでしょう。

4. PMBOK®ガイド 第8版がPMP®認定試験に与える影響予測

PMBOK®ガイドの改訂は、PMP®(Project Management Professional)認定試験の内容にも影響を与えるため、現役のプロジェクトマネジャーやPMP®受験希望者にとって大きな関心事です。

4.1. 試験内容改訂の可能性と時期

歴史的に見て、PMBOK®ガイドの改訂は、遅れてPMP®試験内容の改訂へとつながるのが通例です。重要なのは、この改訂が即時に行われるわけではないという点です。

PMBOK®ガイド第8版が2025年後半(第3四半期または第4四半期)にリリースされると仮定した場合、PMP®試験内容の変更が実際に反映されるのは、**2026**年前半になる可能性が高いと複数の情報源が予測しています⁴。PMIの社長兼CEOであるピーエール・ル・マン氏も、PMP®

試験は第8版リリースの影響を受けるものの、その更新は2025年第4四半期または2026年初頭になる可能性があるとして述べています⁴。また、²⁵の情報も、第8版のリリースに合わせて「来年(2026年)からPMP®試験も新たに改訂が行われる見込み」としており、このタイムラインを裏付けています。

PMP®試験の内容は、PMBOK®ガイドに直接的に1対1で対応しているわけではなく、**試験内容基準(ECO: Exam Content Outline)**に基づいて作成されます⁴。ECOは、プロジェクトマネジャーが実務で必要とされる知識、スキル、タスクを定義したものであり、このECOの改訂がPMP®試験変更の直接的なトリガーとなります。PMBOK®ガイドはECOを作成するための主要な参考文献の一つですが、ECO自体が試験の「設計図」としての役割を果たします。したがって、PMP®受験者は、PMBOK®ガイドの最新版だけでなく、PMIが発表する最新のECOにも常に注意を払う必要があります。

4.2. 現行PMP®受験者へのアドバイス

現在PMP®試験の準備を進めている、あるいは近いうちに受験を予定している方々にとって、PMBOK®ガイド第8版のリリースやそれに伴う試験改訂のニュースは気になることでしょう。しかし、専門家や関連機関からのアドバイスは一貫しています。それは、第8版の正式リリースや試験改訂を待つ必要はなく、現行の学習計画を継続し、準備が整い次第、早期に受験することを推奨するというものです⁴。¹⁵に寄せられた専門家のコメントでは、「今すぐ試験を受けるべきです」「待たないでください。準備を続けてください」と強く勧められています。

その理由として、まず、前述の通り、試験内容の改訂までにはタイムラグがあるため、2025年内は現行の試験形式とECOが維持される可能性が高いとされています²²。²²は「試験構造は2025年を通じて変更なし。同じドメイン、同じフォーマット。同じ試験内容基準(ECO)」と強調しています。

現行の試験対策としては、PMBOK®ガイド第6版(特に49のプロセス理解のため)、アジャイル実務ガイド、そしてPMBOK®ガイド第7版(原理・原則の理解のため)を組み合わせた学習が推奨されています¹⁵。これらの教材で習得する知識や概念の多くは、第8版の内容や将来の試験においても引き続き有効であると見込まれています¹⁵。

また、¹⁰は、PMBOK®ガイド改訂前に受験するメリットとして「教材が豊富であること」を挙げています。現行の試験に対応した教材や模擬試験、研修コースなどが充実しているため、学習を進めやすい環境にあると言えます。試験改訂後は、新しい内容に対応した教材が揃うまでに時間がかかったり、情報が錯綜したりする可能性も考慮すべきでしょう。

したがって、現時点で学習を進めている方は、自信を持って現在の準備を続け、目標とする時期に受験することが賢明な判断と言えます。ECOがPMP®試験準備における「真の北極星」としての役割を果たすことを理解することが重要です。PMBOK®ガイドの版が変わっても、ECOが更新されるまでは試験内容は安定しています。このECO中心のアプローチは、PMBOK®ガ

イドのバージョン変更に伴う不確実性を軽減し、受験者が一貫した学習目標を持てるようにする上で非常に有効です。

4.3. 将来のPMP®試験で重視される可能性のある領域

PMBOK®ガイド第8版の内容が将来のPMP®試験(おそらく2026年以降の改訂版)に反映される際、特に重視される可能性のある領域については、以下のような予測が立てられます。

まず、第7版から継続し、第8版でもその重要性が再確認されるアジャイルおよびハイブリッドアプローチへの焦点が、試験においてもさらに強まると考えられます²³。現代のプロジェクトの多くが、予測型アプローチと適応型アプローチを組み合わせたハイブリッド型で運営されている実情を反映し、これらのアプローチを状況に応じて使い分け、統合する能力が問われるでしょう。

次に、試験問題の形式として、シナリオベースの質問が一層増加すると予想されます²²。これは、単に知識を記憶しているか(Knowing what)を問うのではなく、実際のプロジェクト場面どのように知識を応用し、適切な判断を下せるか(Knowing how and why)という実務的な能力を評価しようとする動きです。²²では「最近の試験バージョンは、よりシナリオベースの質問に焦点を当てている」と現状が述べられており、この傾向は今後も続くと考えられます。

さらに、第8版で新たに強調されるトピック、例えばAI(人工知能)のプロジェクトマネジメントへの応用、サステナビリティ(持続可能性)の組み込み、そして成果と価値提供の最大化といった概念に関連する問題が出題される可能性も十分に考えられます。これらの新しいテーマに対する理解と、それをプロジェクト実務にどう結びつけるかという視点が求められるようになるでしょう。

PMIがオンライン試験で**アダプティブテストング(適応型試験)**の技術を導入する可能性も指摘されています²³。これは、受験者の解答状況に応じて問題の難易度が調整される方式で、より個々の能力を精密に測定することを目指すものです。

これらの予測から浮かび上がるのは、PMP®試験が単なる知識の再現テストから、より高度な**「コンピテンシー(実務遂行能力)評価」へと進化**していく方向性です。プロジェクトマネジャーとして複雑な現実世界の状況に対処し、成果を出す能力が試されるようになるでしょう。これは、PMBOK®ガイド自体が原理・原則、価値提供、適応性を重視する方向にシフトしていることとも軌を一にしています。将来のPMP®受験者は、知識の習得に加えて、それを多様な文脈で応用する思考力、判断力、そしてリーダーシップを磨くことが一層重要になります。

5. 結論と専門家による提言

PMBOK®ガイド第8版は、プロジェクトマネジメントの知識体系における重要な進化を示すものとなるでしょう。そのリリースは2025年後半と予測され、第6版の構造的な明確さと第7版の原理・原則ベースの柔軟性を統合し、AIやサステナビリティといった現代的なテーマを取り入れ

た、よりバランスの取れた実践的なガイドとなることが期待されます。

5.1. 第8版への移行に向けた準備と心構え

PMBOK®ガイド第8版への移行は、単に新しい教科書に目を通す以上の意味を持ちます。これは、プロジェクトマネジャーが自身のスキルセットを見直し、戦略的かつ適応的なリーダーシップを発揮するための機会と捉えるべきです。

第8版が目指すのは、プロセスを遵守するだけの管理者ではなく、原理・原則に基づいて状況判断し、ITTOやプロセスを柔軟にテーラリング（最適化）し、多様なステークホルダーと協調しながら価値を創出できるプロジェクトリーダーの育成です。そのため、以下の点を意識することが重要となります。

1. 統合的思考の涵養：第6版的な「プロセス思考」と第7版的な「原理・原則思考」を組み合わせ、状況に応じて最適なアプローチを選択・統合する能力を磨く。
2. 新技術・新概念への関心：AI、機械学習、データアナリティクスといった技術がプロジェクトマネジメントにどのような影響を与え、どのように活用できるかを積極的に学ぶ。同様に、サステナビリティの概念を理解し、自身のプロジェクトや組織活動にどう組み込めるかを検討する。
3. 価値提供へのコミットメント：プロジェクトの成果を、単なるQCD（品質・コスト・納期）の達成だけでなく、ステークホルダーへの真の価値提供という観点から捉え直す。
4. 継続的な学習意欲：プロジェクトマネジメントの知識体系は常に進化しています。第8版の登場を機に、自身の知識やスキルをアップデートし続ける意欲を持つ。

第8版は、プロジェクトマネジャーが直面する現代の課題に対応し、より高度な専門性を発揮するための触媒となる可能性を秘めています。この変化を前向きに捉え、自己成長の機会とすることが、これからのプロジェクトマネジメント専門家にとって不可欠な心構えと言えるでしょう。

5.2. 今後の情報収集のポイント

PMBOK®ガイド第8版の正式リリース、日本語版の発表、そしてPMP®試験のECO改訂に関する最新かつ正確な情報を入手し続けることは、スムーズな移行と適切な対応のために極めて重要です。以下の情報源を定期的に確認することをお勧めします。

1. **PMI公式サイト(pmi.org)**：PMBOK®ガイドに関する公式発表、リリース情報、FAQなどが掲載される最も信頼性の高い情報源です。
2. **PMI日本支部ウェブサイト(pmi-japan.org)**：日本語での情報提供や、日本国内のPMP®コミュニティ向けのイベント情報などが期待できます。
3. 信頼できる研修機関や情報サイト：PMI認定の教育プロバイダー(ATP)や、実績のあるプロジェクトマネジメント関連の情報サイト(例：日本プロジェクトソリューションズ株式会社³、ProjectManagement.com⁸ など)が発信する解説記事、ブログ、ウェビナーなども有

用な情報を提供してくれます。

4. **PMP®試験内容基準(ECO)**: 特にPMP®受験を予定している方は、PMI公式サイトで公開される最新のECOに常に注意を払い、試験範囲の変更を正確に把握する必要があります。

PMBOK®ガイドは、4～5年ごとに改訂される「生きた標準(Living Standard)」であり、その進化はコミュニティからのフィードバックと業界の動向によって駆動されています¹⁴。第8版の登場は一つのマイルストーンですが、プロジェクトマネジメントの知識と実践はその後も発展を続けます。したがって、特定の版への対応だけでなく、継続的な学習とPMIやプロジェクトマネジメントコミュニティとの積極的な関わりを持つことが、長期的な専門性の維持・向上に不可欠です。情報収集は一過性のものではなく、習慣として続けるべき活動と言えるでしょう。

本レポートが、PMBOK®ガイド第8版に関するご理解を深め、今後の学習や実務の一助となれば幸いです。

引用文献

1. A Guide to the Project Management Body of Knowledge (PMBOK® Guide) – Eighth Edition, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://www.amazon.com/Guide-Project-Management-Knowledge-PMBOK%C2%AE/dp/1628258292>
2. PMBOK – Project Management Station, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://www.projectmanagementstation.com/pmbok/>
3. PMBOK®Guide 第8版 変更に関する最新情報 - 日本プロジェクトソリューションズ株式会社, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://www.japan-project-solutions.com/pmbok8th>
4. PMBOK Guide 8th Edition: What It Means for the PMP Exam in 2025 - Yassine Tounsi, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://yassinetounsi.com/pmbok-8th-edition-pmp-exam-2025-updates/>
5. The PMBOK Guide 8th Edition Draft – My Feedback – Project Success, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://www.leancxscore.com/the-pmbok-guide-8th-edition-draft-my-feedback/>
6. PMBOK® Guide 8th Edition: A New Era for Project Management ..., 5月 13, 2025にアクセス、
<https://news.pm-global.co.uk/2025/01/pmbok-guide-8th-edition-a-new-era-for-project-management/>
7. PMBOK Guide – Eighth Edition BSR-8 - PMI Hong Kong Chapter, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://www.pmi.org.hk/2025/04/25/pmbok-guide-eighth-edition-bsr-8/>
8. Announcing The Standard for Project Management – Eighth Edition (PMBOK® Guide) ANSI BSR-8, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://www.projectmanagement.com/articles/1077191/announcing-the-standard-for-project-management---eighth-edition--pmbok--guide--ansi-bsr-8->
9. PMBOK® Guide 7th Edition vs 6th Edition - Project Management Academy Resources, 5月 13, 2025にアクセス、

<https://projectmanagementacademy.net/resources/blog/pmbok-guide-7th-edition-vs-6th-edition/>

10. PMBOK® Guide 第8版 変更の最新情報 - JPSビジネスカレッジ, 5月 13, 2025にアクセス、<https://www.jpsof.co.jp/info-pmbokguide-8th/>
11. PMBOK第7版での変更点とは？第6版との違いや試験への影響を簡単に解説, 5月 13, 2025にアクセス、<https://freeconsultant.jp/column/c379/>
12. PMBOKとは？詳しい内容や第7版の変更点について解説 | 【公式】Lychee Redmine | 使いやすさ抜群のガントチャート！らくらくプロジェクト管理ツール, 5月 13, 2025にアクセス、<https://lychee-redmine.jp/blogs/project/tips-pmbok/>
13. PMBOK 6 vs. PMBOK 7: Which Edition Is Right for You? - ProThoughts, 5月 13, 2025にアクセス、<https://prothoughts.co.in/blog/pmbok-6-vs-pmbok-7/>
14. PMBOK® Guide Release Date - Project Management Academy Resources, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://projectmanagementacademy.net/resources/blog/pmbok-guide-release-date/>
15. PMBOK 8th Edition Draft Review and Its Effect on Your PMP Exam Prep - Reddit, 5月 13, 2025にアクセス、
https://www.reddit.com/r/pmp/comments/1ihe1f3/pmbok_8th_edition_draft_review_and_its_effect_on/
16. 日本語訳 | PMBOK(R)ガイド 第8版の最新情報 | SmileWay - プロジェクトマネジメント研修, 5月 13, 2025にアクセス、<https://www.smileway37.com/pmbok8th>
17. PMBOK Guide 8th Edition – ManagementYogi's First View and Analysis on the Process Groups, Performance Domains and Addition of Artificial Intelligence (AI) - MANAGEMENT YOGI, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://www.managementyogi.com/2025/01/pmbok-8th-ed-managementyogi-first-view-process-groups-performance-domains-addition-of-artificial-intelligence.html>
18. The New PMBOK Guide – 8th Edition, Project Management and Artificial Intelligence, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://mpug.com/the-new-pmbok-guide-eighth-edition-project-management-and-artificial-intelligence/>
19. 進化するPMI標準, 5月 13, 2025にアクセス、
https://www.pmi-japan.org/wp-content/uploads/2024/02/03_20231221_PMI-STD-1.pdf
20. 2025年AI@Work AI4PM キックオフ資料, 5月 13, 2025にアクセス、
https://www.pmi-japan.org/wp-content/uploads/2025/01/20250119_AlatWork2025Kickoff_WG2.pdf
21. PMBOK Guide: A Detailed Comparison of the 6th, 7th, and 8th Edition that Top Differences You Need to Know - Winnex Institute, 5月 13, 2025にアクセス、
<https://winnex.org/pmbok-comparison-pmbok6-pmbok7-pmbok8/>
22. [Resource] PMP Exam 2025 Changes - What You Actually Need to Know - Reddit, 5月 13, 2025にアクセス、
https://www.reddit.com/r/pmp/comments/1hstmg1/resource_pmp_exam_2025_changes_what_you_actually/
23. PMP Exam Changes 2025: What You Need to Know - Spoto, 5月 13, 2025にアクセス

ス、

<https://cciedump.spoto.net/newblog/pmp-exam-changes-2025-what-you-need-to-know.html>

24. Overview Changes Proposed Guide Practices Applicable - Project Management Institute, 5月 13, 2025にアクセス、

<https://www.pmi.org/learning/library/overview-changes-proposed-guide-practices-applicable-8435>

25. PMBOK®ガイド 第8版リリース時期について - プロジェクトマネジメントの研修・講座・コンサルティングならアイシンク株式会社, 5月 13, 2025にアクセス、

<https://www.i-think.co.jp/archives/21129/>